

# 中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<22>

未来守りネットワークは中海の水質浄化のため、アマモ、コアマモ場の再生、海藻リサイクルによる中海産海藻特殊肥料「ミネラル海藻」の製造と普及に取り組んでいます。さらにはアサリ漁場や流域の河川をよみがえらせ、絶滅危惧種を保護するなど、山・川・海の自然保護を通じた地域再生と産業の活性化のため、日々活動しています。

## 農業漁業の連携

海藻農法普及協議会では昨年10月と今年2月、中海の海藻特殊肥料の歴史や海藻農法による農作物の差別化、地域ブランド構築について講演会を開きました。

### 「海藻肥料」が懸け橋に

境港市の夢みなどタワにランド化へ、多くのヒント市」は消費者からの反響も講師を招き、参加者はそれぞれがありました。良く、次回開催を望む声が寄せられるようになりまら、間もなく1年になりました。野菜市はできるだけ多す。この間、海藻農法に對し、開催することにしておする意識が高まり、各農家り、境港市の水木しげる口で試験栽培をした結果、良ード近くで毎月1度の定期い評価が出たようです。開催へ向け、海藻農法採用また、PRのため催した農家に農作物の提供を依頼業改革、中海産魚介類の「海藻農法」でできた野菜していきます。



キャラクター「なかうーみん」の認証シール

一方、海藻農法でできた農作物に認証シールを張り、他の農作物との差別化を図ることも決定。人魚のキャラクター「なかうーみん」を作りました。認証シールを農家に購入してもらい、その収益金は中海の水質浄化のために寄付します。

このような仕組みを提案、実行するのは、全国で初めてのケースではないかと思っっています。そうすることで農業と漁業の連携による地域間の絆が生まれ、雇用の拡大や新規産業の育成が可能になると考えます。中海再生には、地域の連携が不可欠です。そのためにも中海産海藻肥料が、その懸け橋になると信じています。

(未来守りネットワーク 理事長・奥森隆夫)